

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2171600253
法人名	有限会社アイケアー
事業所名	(有)あいケアグループホームたけのこし
訪問調査日	平成 21 年 2 月 13 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 9 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2171600253
法人名	有限会社 あい케어
事業所名	グループホームたけのこし
所在地	岐阜県瑞浪市高月町2丁目11番地の1 (電話) 0572 - 67 - 2669

評価機関名	NPO法人 旅人といよの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(21年 1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 2月 18日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 6人, 非常勤 10人, 常勤換算 12.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	16,050 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	766 円		

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 80歳	最低	61歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮川クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建てアパートを改装したホームである。共有空間に制約があるが、生活感あふれる家庭的な雰囲気があり目の行き届いたケアと戸外に出かける支援をしている。職員の年代は、20代から70代まで幅広く顔馴染みの関係で、利用者と触れ合う時間を大切に寄り添うケアをしている。管理者、職員は、利用者と過ごすことが自分自身の生活の一部となり常に利用者のことを思い、喜怒哀楽を共にした支援に取り組んでいる。また退居された家族からホームのことを聞き「是非入居予約をしたい」と言われ、この声を大切に一日でも長く利用者と共に地域の中で暮らし続けることを目標としている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題は、ミーティングで話し合い改善に向けての取り組みがある。水分量の把握には生活記録のシートを見直し水分確保の支援をしている。居室に閉じこもりがちな男性利用者に生活歴から趣味や意欲を引き出す支援をしている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は、全員で自己評価に取り組むことは出来なかったが、職員は、評価をすることで自分自身の振り返りが出来、外部評価を受けることでホームや日々の取り組みを知ってもらいいい機会と捉え評価に前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、利用者の日々の暮らしぶりを報告したり認知症、介護保険制度などの勉強や説明会をして地域から理解を得られるよう努めている。また会議前にホームを見学して利用者、職員の様子、サービスの実態を見てもらい参加者からの感想、意見からサービスの質の向上に繋げる取り組みをしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>定期的に発行するホーム便り、スナップ写真を送付したり家族の訪問時に日々の暮らしぶりを報告している。家族から意見や苦情、要望が出やすいような雰囲気づくりに心がけ、運営推進会議でも家族が順番に参加し、多くの意見が出るよう働きかけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の方から雑巾やタオル、野菜を頂いたり散歩時に話すなど日常的に交流する機会をもっている。近所の喫茶店へ行ったり、民生委員の方から詩吟教室に誘われて出かけるなど日ごろから地域の人々との交流を深めている。また外出した利用者の連絡を美容院からもらうなどホームの理解を得た連携もある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との関わりを理解し、地域の一員として暮らし続けるための支援に取り組んでいるが、地域密着型事業所としての理念を具体的に見直していない。		住み慣れた地域の中で暮らし続ける地域密着型サービスの役割を目指して、事業所独自の理念を職員と共に作り上げることが望まれる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、ミーティングや日々のケアで理念に振り返り利用者が、安心して暮らせるよう取り組んでいる。管理者、職員共に今後さらに地域密着型事業所としての理念の取り組みを検討課題としている。		ミーティングでの話し合いを活かし、今後さらに日々のサービス提供場面において理念が反映されることを期待する。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員さんの誘いで詩吟教室へ行ったり、秋祭りや福祉祭りに参加している。ホームには学童保育児や近所の方が遊びに来ることもある。また近所の方から野菜をいただいたり、散歩時の挨拶や会話、職員が、近隣の商店を利用するなど地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価をすることで日々のケアを振り返り、自分自身の見直しをしている。外部評価では、ホームのことや日々の取り組み、思いを知ってもらう良い機会と捉えている。また評価の結果は、ミーティングで報告し改善に向けて話し合い取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を始める前にホーム内を見学して利用者、職員の姿や様子のサービスの実態を見てもらいその感想、意見をサービスの向上に繋げるよう取り組んでいるが、参加者、家族からの意見や苦情、要望がなくサービスに活かすまでに至っていない。前回の外部評価の報告もなされていない。		多くの地域住民の参加を呼びかけ、参加者からの意見が出しやすい工夫と、外部評価の結果を公表し多くの意見を吸い上げ、サービスの質の向上に繋げることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター、介護課、社会福祉課の主催する会議や勉強会に参加したり、市町村担当者から声をかけてもらうなど繋がりがあがる。また福祉課の職員がホームを訪問することもあり市町村と相談しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回発行するホーム便りと、請求書送付時に食事や散歩時の写真を同封し日々の様子を知らせ、家族から近況が分かると喜ばれている。個々の暮らしぶりは、家族の訪問時に報告し、訪問のない家族には電話で報告している。健康状態の変化は、その都度電話連絡で対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や訪問時に意見、苦情など話しやすい雰囲気や方言を用いた声かけなど心がけているが、家族からの意見、苦情、要望など得ることがなくサービスの反映までに至っていない。		家族同士が話し合えるような機会や意見、苦情などを表せるように働きかけ、得られた意見や苦情をサービスに反映させることを期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動もなく顔馴染みの関係でケアを行っている。離職の場合は、引継ぎの期間を十分に取徐々に慣れるようにしている。また辞めた職員が遊びに来て利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るための継続研修を年に1回受講する方針はあるが、全職員の勉強会や研修を受ける機会が少ない。		職員を育てるための研修機会を確保する研修計画を立てるなど全職員が、勉強会や研修会に積極的に参加できるような取り組みと研修報告を職員間で共有することを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は、グループホーム協議会に出席したり他の事業所と相互に訪問する機会を持っている。互いの悩みや意見交換から日々のケアを振り返り、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅や入院先等へ出向いたり、本人や家族がホームへ遊びながら見学に来るなど、職員やホームの雰囲気徐々に馴染めるよう工夫をしている。また入居前に3ヶ月の期間日割りで試すことも出来、納得してからサービスの利用を開始する工夫もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の経験を活かしてリハビリの仕方を学んだり、郷土料理やこんにやく料理など日々の会話から献立の参考にしている。職員が手を離せない時「俺が見てるから」と声を掛けてもらうこともある。また利用者の悩みを聞いて夢を見てしまうなど共に学んだり支えあう関係を築いている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の寄り添うケアで一人ひとりの言葉や行動、表現を注意深く探って思いや希望の把握に努めている。不安を抱える利用者には、個別に場所や雰囲気を変えたり、隣町の回想法センターへ出かけることもある。把握の困難な利用者には、家族とも相談しながら根気よく話を聴いている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月行うミーティングで利用者一人ひとりの気付きや思いを話し合い、職員の意見、利用者の思いを取り入れた介護計画を作成している。また家族からは、訪問時や電話で相談や意見を求め介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直し時には、家族へ思いや希望、意見など書き込む用紙を送り、その返事を介護計画に取り入れている。状態の変化に伴う見直しは、管理者、職員、家族、医師等と相談しながら対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望でお墓参りや図書館へ出かける外出支援をしている。また、かかりつけ医、専門医の受診や送迎を利用者、家族の要望に応じ柔軟な支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や専門医等を受診する利用者もある。受診の際には診療情報提供書で協力医との連携を図り、利用者や家族の希望を大切に適切な医療を受けるための支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所、入院先も視野に入れて利用者や家族の希望を聞きながら重度化や終末期の事業所の対応できる支援や方針を利用者、家族、職員、協力医等と話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇り、尊厳を尊重しながら言葉を選び考えてケアをしている。夜間のトイレ介助には、小さな音の鈴や鳴子で合図してもらいプライバシーに配慮している。またケース記録などの名前にはアルファベットを用いて特定できないようし、時々場所を変える工夫をして慎重に取り扱っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊や夜更かし、食事の時間も利用者のペースに合わせた支援をしている。散歩、部屋で趣味を楽しむなど一人ひとりのペースを大切に利用者の希望にそった支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立がマンネリ化しないよう利用者の希望を取り入れ相談しながら一緒に考えている。職員は、利用者一人ひとりのペースに合わせた楽しい食事ができる雰囲気大切にしている。また野菜洗い、皮むき、味付け、下膳を一緒に行い利用者の力を活かした支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の目安は決めているが、利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴支援に心がけている。入浴を拒む利用者には、時間をかけて職員を変えたり、声かけに工夫をしながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇の手入れ、駐車場の掃除、スケッチ、100マス計算、動物の紙細工作り、ジグソーパズル、日記など利用者の日々の暮らしに生活歴や力を活かした楽しみや役割、張り合いが持てるよう意欲を引き出す支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの駐車場や近所への散歩はよく出かけている。喫茶店、図書館、神社の花見、公園でおやつをするなど戸外に出かけて外気に触れ気分転換が出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの支援 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の立場を思い玄関、ベランダ共に鍵をかけないケアをしている。外のゴミ箱にゴミを入れにくい利用者もあり自由に出入り出来、外出したい利用者の様子を把握し、付き添って見守るようにしている。近所の方には、声かけや連絡をしてもらえる関係も築いている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回消防署の指導のもと利用者と共に避難訓練、消火器の使い方などは行っているが、地域住民の協力が得られるような働きかけがない。		今後も繰り返し運営推進会議などで呼びかけ、地域の人々の協力が得られるよう一緒に訓練を行うなどの取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好み、希望を献立に採り入れ個々に合わせた食事形態の支援をしている。一人ひとりの毎食の摂取量、一日の水分量の記録から栄養状態の把握を職員間で共有している。また法人の栄養士にカロリー計算による栄養バランスのチェックをしてもらった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、スペースに制約があるが、そのことが生活感あふれる家庭的な雰囲気を生み出している。不快な音や臭い等もない。手作りのカレンダーには、節分の豆まきや鬼が書かれ季節感を採り入れ居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や趣味の小物、使い慣れた生活用品等を持ち込んでいる。居室の品々を思い出深く語る利用者もいる。家族の情報をもとに生活の継続性と利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		